

第2回 日光宇都宮に関する有識者会議議事録

日時:平成27年1月14日(水) 13:30~16:30

平成27年1月19日(月) 14:00~17:00

場所:栃木県道路公社(大沢) 1階大会議室(現地視察)

出席委員:1月14日新井委員、加藤委員、中村委員長

1月19日末武委員、中島委員 (五十音順)

1. 開会

2. 挨拶

〈栃木県道路公社理事長〉

本日は実際に現地を見ていただきまして、どのような状況になっているかということでご確認いただきたいと思っております。日光宇都宮道路も建設から40年近く経ちまして、各施設が高齢化していることから、現在のサービス水準を維持しながら、その役割を果たすための方策や財源確保について先生方に意見を伺い提言を頂戴したいと考えております。

3. 委員紹介

4. 議事

(1)現地調査の概要について

【事務局】本日、現地を確認していただく箇所は4箇所です。まず、中野高架橋の主な損傷状況として、桁の鉄筋露出、床版の鉄筋露出、伸縮装置の腐食が確認できます。次に鳴虫山トンネルについては、在来工法(矢板工法)で造られたトンネルで、覆工(コンクリートを巻き立てたもの)からの漏水が確認できます。次に鳴虫山トンネルの附属設備、非常用設備ですが、消火栓、道路情報板、換気設備などの腐食の状況が確認できます。次に安良沢大谷橋は3つの橋梁形式に分かれており、1つめはコンクリートの橋梁で床版の損傷、支承の損傷が確認できます。2つめはメタル(鋼)の箱桁の橋梁で、桁の腐食が進んでいます。また支承の損傷腐食がございます。3つめはコンクリートの橋梁で、損傷劣化箇所がご確認いただけます。最後に鳴虫山電気室です。受電設備、自家用発電設備が使用開始から40年近く経っており、設備の耐用年数(10~15年)を超えて一回も更新できておらず、代替部品も無いような状況です。

《19日》

【委員】各資料の最初のところに損傷状況等(点検結果)に「要補修」と書いてあるのはどういう取り扱いになるのですか。

【事務局】前回の点検結果に基づき、早期に対応をした方が良いと判定された箇所です。

【委員】今回の大規模修繕とは関係なしに直さなければならなかったということですか。

【事務局】今回の大規模修繕を実施する項目です。

【委員】点検の結果、直さなければならない項目だが大規模修繕でやりたいということですか。

【事務局】そういうことです。

【委員】これから手立てを考えるとということですか。

【事務局】私どもの方で優先順位をたてておまして、優先順位の高いものについては修繕に向けた準備を進めている段階です。

【委員】落橋防止が未施工で必要だという記載があるが、優先順位としては橋梁補修の方を先にやってそれから落橋防止に移っていくのですか。ものによっては落橋防止を優先するのですか。

【事務局】基本的には橋梁補修を優先しています。補修をした上で耐震補強を進める予定です。そういったことも勘案して優先順位を立てており、今回の大規模修繕の中で耐震補強を併せて実施をしていきたいと考えております。

【委員】すると橋梁補修が終わってから落橋防止ということになるのですね。

【事務局】補修には足場など仮設備が必要となり、同一橋梁で耐震補強が必要な場合は同時に実施してしまえば仮設備費用の重複が発生しないことから、できれば同時にやりたいと考えております。

【委員】安良沢大谷橋はコンクリートの橋脚ではないのですか。

【事務局】大谷川の河川内の橋脚のため、コンクリートの橋脚を保護する目的で外側に鋼板を巻き立ててあり、その鋼板を保護するシートが剥がれている状態です。なお、こちらの橋梁はまだ耐震補強は済んでおりません。

現地調査後

《14日》

【委員】我々は通常、道路を通行するだけで、大丈夫だろうと、安全だろうと思って今まで通行していました。やはり30何年経った施設は、メンテナンスが必要であり、このままにしておくと、日光宇都宮道路がダメになってしまうというのを如実に感じた次第です。このまま対策を打たなければ、一般道路と違って、この道路が持つ高速走行機能が維持できなくなるため、早く補修をしなくてはいけないと感じた次第です。

【委員】特に鳴虫山のトンネルの器具の劣化が酷くて、このまま放置したらどうなるかと感じました。また、電気設備についても、部品が無いことを考えると、早急にでもやらなくてはいけないと思うのと同時に、現場の方たちが一生懸命苦労しながら、色々やりくりしながら、維持していることは大変な仕事だなと思いました。これを何とか維持管理していかなくてはならないので、早急に対策を立ててほしいと思います。

【委員】道路は365日24時間、通行の安全上のことや、非常の際の対応など、全てにわた

って回していかなければいけない。それを維持していくために、プロフェッショナルの方々が支えているということに非常に感銘を受けました。是非、日光宇都宮道路の持っている観光性などの様々な価値をPRするような形を考えていただきたい。また、ある意味時間との闘いもあるし、対応が遅ればコストもかかってくるので、今後維持していくために、一歩も二歩も踏み込んだ方策を我々も考えていけたらと思います。特に古いものはいろいろとやり繰りしながら、結構ギリギリのところを使っているということなので、県民の方が少しでも思いを馳せてもらえるようにPRしていければと思います。

【事務局】24時間365日管理をしていることが地域を支えている根源だと思っています。そのなかで、先生方から日光宇都宮道路が持つ価値やレベルというものをきちんと評価し、それを県民への発信し、説明責任を果たしていく必要性、また、日光宇都宮道路のあるべき姿について、今後の管理も含め、現状を見た中で御議論いただきました。次回以降も更に議論を深めていただいた上で、日光宇都宮道路について今の機能を維持しつつ、適切に補修していきたいと考えております。

【事務局】橋梁については点検を実施し、Ⅰ(健全)～Ⅳ(緊急措置段階)までの4段階の区分で判定しております。緊急措置段階の橋梁3橋につきましては、現時点で対応済となっております。これにより、現在残っているのは区分Ⅲの早期措置段階ですが、こちらは、緊急措置段階には至っていないが、近い将来そういう状況になることを考えて、対応を要するという判定となっております。本日御覧いただけなかった箇所についても、同様の状況であるということをご理解いただければと思います。

【委員】道路という公共サービスの一番大切なところを維持していただくの大切さというか、非常に冷静に安定的に継続してプロフェッショナルとしての能力を発揮すると同時に、熱い志を伝えていくという、一見矛盾するようなことかもしれませんが、そこを両方とも持ちつつ日々奮闘されている。その現場の最前線の方が直面する難しさを少し垣間見た程度かもしれませんが、実際の現場で見せてもらったことは貴重な経験だったと思いますし、若い世代にも伝えていきたいなと思いました。

《19日》

【委員】橋とトンネルを見ると、何らかのトラブルがあった場合は、関係ない区間は部分的に供用できるのかもしれないけど、費用がかかっても直さなくてはいけないと思ったのと、電気設備も心配です。何とか資金を工面してやらないと、電気設備が一番の問題になったりするかもしれない。これはもう御理解されたいと思います。

【委員】今日見せていただいたコンクリートが剥離して鉄筋が見えているとか、ひび割れが入っているとか、あれは色々ある中で、特に目立つところを今日は見せていただいたということで理解してよろしいですか。

【事務局】確かに修繕の優先順位が高いところを見ていただいたと御理解いただければよろしいかと思います。

【委員】どこもかしこも、ああいう風になっているという訳ではないということですね。

【事務局】今日は御覧いただく時間がありませんでしたが、他の橋梁でも支承部、あるいは床版

など何らかの損傷が確認されています。現時点で緊急な危険性はないにしても、それなりの劣化はしている状況です。そういった状況は、各構造物とも共通の状況と認識しているところです。

【委員】そういう意味では代表的な箇所と考えた方がいいですね。そうすると、かなり傷んでますよね。

【事務局】本日見て頂いた橋梁のどの部分がひび割れや腐食が見られますというような形で資料に掲載しております。基本的には全ての構造物で同様な管理と御理解頂ければと思います。

【委員】電気設備では、部品交換といっても昔のものだから使える部品は取っておいたり、色々工夫されている。今後のことですが、基本的にあれだけ長期間使うとなると、いざという時に備えて部分補修するというイメージじゃなくて、もう全部総取替えみたいな形で考えなくてはいけないという気がしました。普通の家電製品だったら壊れたところを直していけばいいけれども、ああいうものは、20年、30年使っているのも、それこそ常に部品が古くて無いとか、修理ももう利かないとか、そう考えると、基本的に直しながら使っていくということではなくて、定期的に全取替えするというような考え方にしないといけないという感想を持ちました。結局最後は予算の問題になるのでしょうか。

【事務局】ここにありますように、今の日光宇都宮道路の電気設備に関して言えば、基本的には耐用年数超過し、部品が無いなど、いざというときに問題が発生する恐れがあります。

【委員】鳴虫山電気室はこの有料道路全部の電気を賄っているのですか。

【事務局】鳴虫山と神主山の2トンネル分だけです。

【委員】ただ、この電気設備に何かあった時に電力の関係で道路だけでなく周辺の住居等にも影響するかもしれないということです。

【委員】それもまずいです。道路のトンネルの明かりが全部消えるとか、道路の周辺の施設が使えなくなるっていうのは当然まずいけど、近隣の住民に停電を起こす可能性がある、その影響を考えると危ないです。受電施設のルーの部分はいつ不具合が起きるか分からないという話もありました。

【事務局】本当に綱渡りの状況です。県全体予算も厳しいという中で、そもそも受益者負担の有料道路としてお金をいただいて運営している以上、料金で賄うか、税金を充てるか、資金確保の方法についてはやはり慎重に検討する必要があると思います。

【委員】電気設備の話以外に、橋梁については今日見たところは損傷の厳しいところを見たが、そんなにはひどくはないのかなと思います。だから、架替えは必要な状況ではないが、構造物も永遠ではないから、ある日造り変えなければならないと前回の会議で私が申し上げましたが、補修するのであれば先のことまで考えて、補修していった方が使

う分にはいいと思います。あとは、優先順位のつけ方だと思います。

【事務局】実際通行できなくなる事態がいつ起こるかわからないというのが正直あります。そうした時に通れない状態をいかに短くするかが重要になってきます。長期間安全・安心が確保できるのであれば、今から補修していきたいと思っております。

【委員】こういった電気設備もできれば取替えですよね。あとは予算の問題。

【事務局】電気設備などの道路設備は基本的に全て更新が必要と考えています。できれば万が一の不具合も発生しないような安全な道路にしていきたいと考えております。

5. その他

【事務局】次回の開催につきましては、各先生方に順に調整させていただきましたけれども、2月2日予定しております。

6. 閉会